

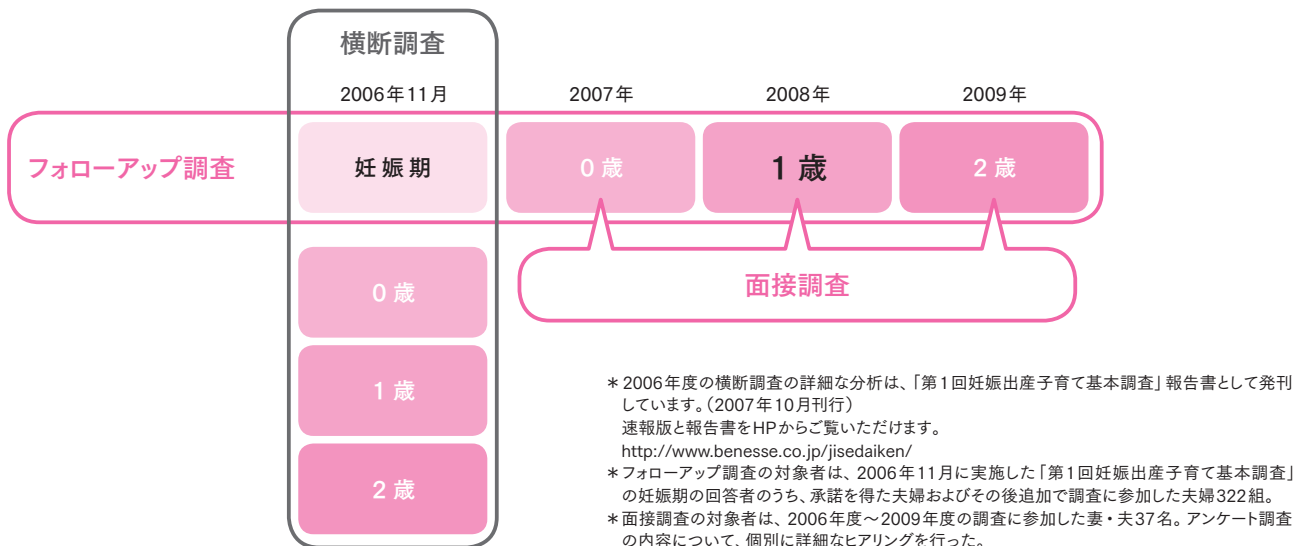
1歳児期の子どもを持つ
家族の姿がわかる!

第1回
妊娠出産子育て
基本調査・
フォローアップ調査

1歳児期

本調査について

本調査は、はじめての子どもを持つ夫婦が、出産、子育てをどのように迎え、子育てにどのように対応していくのかを明らかにする目的で実施したものです。2006年度に妊娠期から2歳児期までの家族の実態を横断的に把握しました。2007年度より2006年度調査で妊娠後期だったご家族(妻・夫)322組を、毎年継続して追跡することで、親になるプロセスと子育ての状況を探るフォローアップ調査をしています。今回の速報版は、フォローアップ調査のうち、妊娠期から子どもが1歳児後半になった時点までのアンケートを分析したものです。



調査概要

● 調査テーマ

夫婦の妊娠期から育児期における家族のQOL*と子育て環境との関連性、生活の実態など。

● 調査と方法

フォローアップ調査

調査方法: 郵送法(自記式アンケートを郵送により配布・回収)

対象者: 第1子の妊娠期から2歳までのフォローアップ調査に同意した夫婦322組

調査時期: 2006年から4年間(年1回調査/11月・6月の2グループ)

調査地域: 全国

面接調査

対象者: フォローアップ調査に参加している妻・夫37名

調査時期: 2009年7月～8月

調査地域: 東京・熊本

※東京の夫の一部と熊本は面接調査の内容をもとにした自記式アンケートを郵送により配布・回収

実施時期

	11月グループ	6月グループ
妊娠期妻・夫 (322人)	2006年	2007年
0歳児期妻・夫 (322人)	2007年	2008年
1歳児期妻・夫 (322人)	2008年	2009年

● 調査項目

家庭での養育機能、夫婦の相互サポート、夫婦の愛情関係、親と子のQOL*、子育てのストレス、ワークライフバランス、子どもの行動の特徴、子どもの発達、子どもの生活時間(日誌形式)

* WHO(国際連合世界保健機関)QOLについて

QOL(クオリティ・オブ・ライフ、生活の質)とは、人々が感じている自分自身の生活の良質さのことです。『WHO QOL26』は、国際連合世界保健機関(WHO)が定義する“健康”(身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること)の概念に沿って作成されました。今回の調査で使用したWHO開発の『WHO QOL26』質問項目は、出版元、株式会社金子書房の許可を得て使用しました。

はじめての子が誕生してから1年。
子どもがすくすく成長するなかで、1歳児を持つ親も、
少しずつ成長をしている時期です。

**1歳児が成長していくなかで、
家族はどのように子育て環境を整え、
子育て意識や子どもとの
かかわりを育んで
いくのでしょうか。**



POINT 1 子どもの成長と
子育てストレス

POINT 2 子育てをする
夫婦の関係



POINT 3 父親と子育て

POINT 4 相談先や地域の
サポート・ネットワーク

? 1歳児を持つ妻・夫の子育て生活は、
0歳児期と比べて、どう変化する？

? はじめての子どもを育てていくなかで、
妻・夫の子育て意識や子どもとのかかわりは、
1歳児期にどのように育まれている？

? 1歳児を育てるなかで、妻・夫は、互いに、
また身近な人や地域の人などと、
どうかかわっている？

子どもが0歳から1歳へと成長するときの、子育ての現状と
子育て意識や子どもとのかかわりに影響するポイントを探り、
どんなサポートが役立つかを考えていきます。

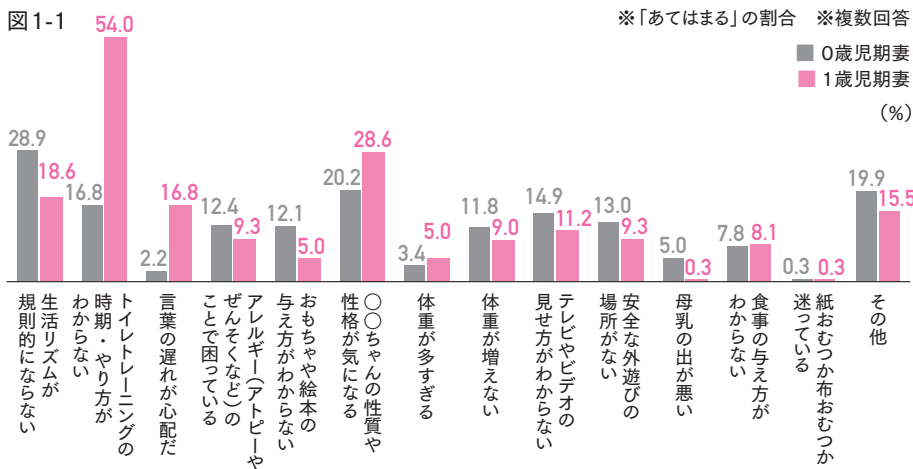
POINT
1

子どもの成長と 子育てストレス

子どもが1歳になると、活発に動き回り、言葉話し、自我の芽生えが見られるようになります。子どもの成長とともに、妻・夫の子育てストレスも大きくなりますが、1歳児期にはどのようなことが大きく関連しているのでしょうか。詳しくみていきたいと思います。

子育ての悩み

Q 現在、子どものことで悩んでいることはありますか。

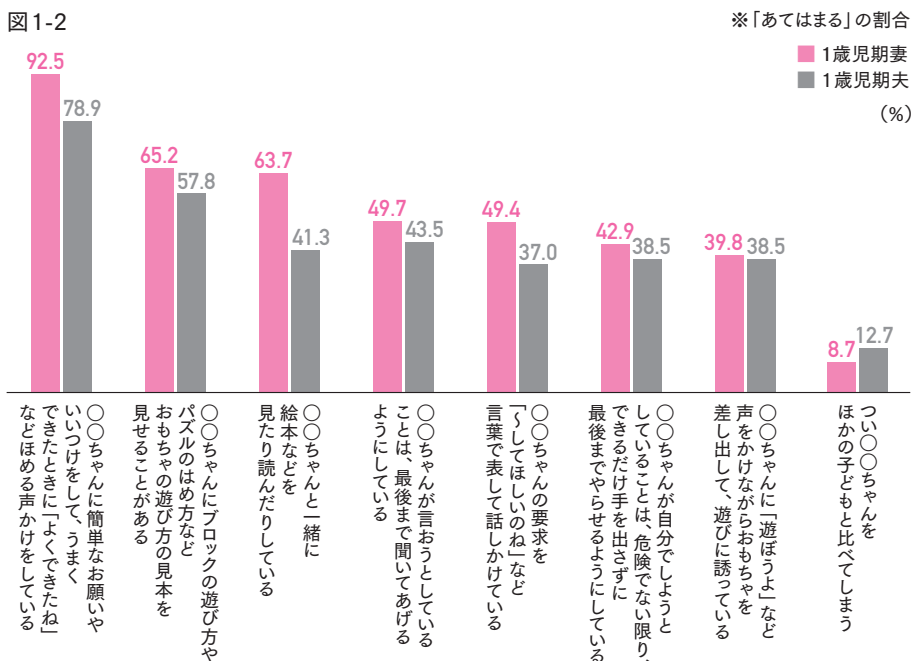


妻が0歳児期に多く持っていた悩みは減り、子どもの成長に伴う悩みが増える

1歳児期は0歳児期に比べて、悩みとして挙げられた項目が集中しています。0歳児期に比べて「生活リズムが規則的にならない」「おもちゃや絵本の与え方がわからない」「テレビやビデオの見せ方がわからない」などへの悩みが減り、「トイレトレーニングの時期・やり方がわからない」「言葉の遅れが心配だ」「○○ちゃんの性質や性格が気になる」など成長に伴った悩みが増えていきます。

養育行動

Q あなたは、○○ちゃんの子育てについて、どのように考えたり、行動したりしていますか。



妻の9割、夫の8割弱が、子どもにほめる声かけを行っている

子どもとのかかわりでは、「簡単なお願いやいいつけをして、うまくできたときに『よくできたね』などほめる声かけをしている」がもっとも多く行われており、次に「ブロックの遊び方やパズルのはめ方などおもちゃの遊び方の見本を見ることがある」でした。

ほめる声かけなどの親からの働きかけは高い割合で行われていますが、半数以下になったのは、「○○ちゃんが言おうとしていることは、最後まで聞いてあげるようにしている」など、子どもの様子を見守ったり気持ちに寄り添ったりする行動でした。

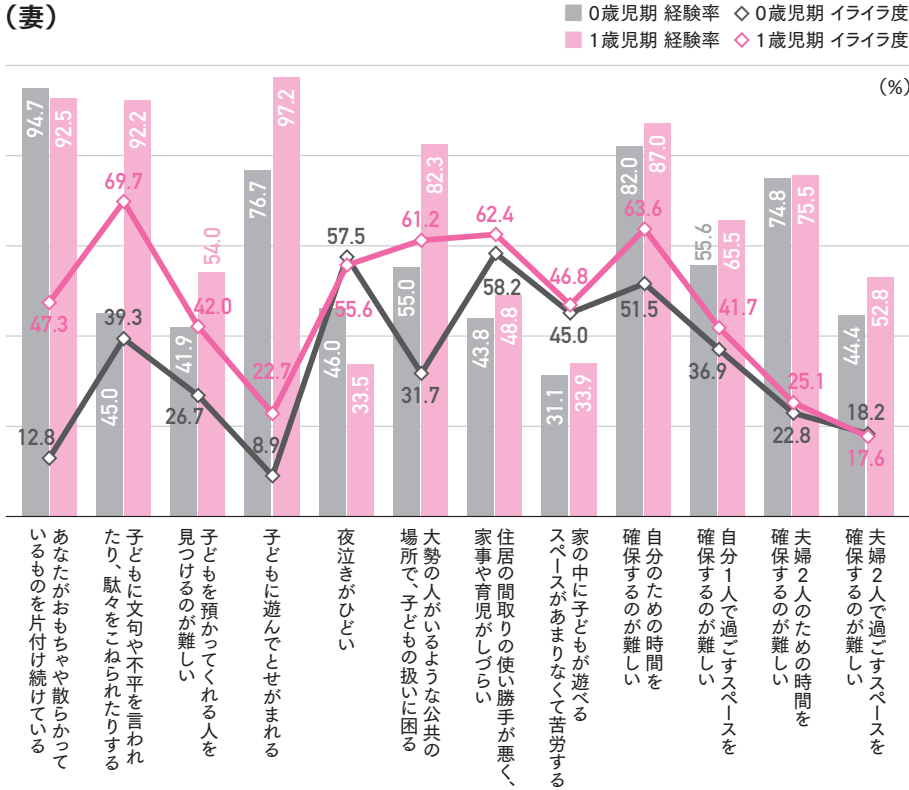
Q あなたのご家庭の様子について おうかがいします。

※経験率は「経験したことがある」と答えた割合。

※イライラ度は「経験したことがある」と答えた人で「非常に+ややイライラする」と答えた割合を示す。

図1-3

(妻)



夫婦とも子育て生活で直面する経験とストレスが増え、妻のストレスがより大きい

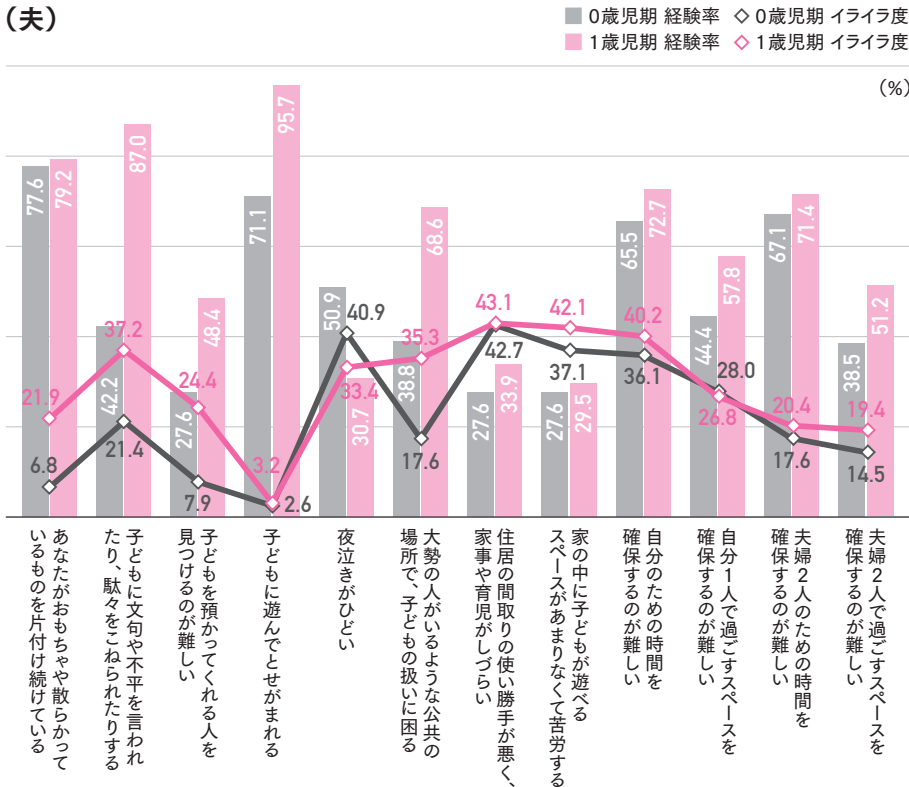
子育て生活でストレスになり得る12項目について、経験とそのイライラ度を聞いた結果です。経験では、妻・夫ともに「子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする」「子どもに遊んでとせがまれる」「大勢の人がいるような公共の場所で、子どもの扱いに困る」といった子どもの成長に伴う項目で割合が増えています。イライラ度では、妻・夫ともに全体的に上がり、とくに妻の数値が大きくなっています。

図1-3をみると、妻の場合、経験した割合が0歳児期と変わらず多く、イライラ度が1歳児期にあがっているのが「おもちゃや散らかっているものを片付け続けている」「自分のための時間を確保するのが難しい」でした。経験した割合もイライラ度も1歳児期にあがっているのは「子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする」「大勢の人がいるような公共の場所で、子どもの扱いに困る」でした。

図1-4をみると、夫の場合、妻と同様に、「子どもの駄々」や「自分のための時間の確保の難しさ」「公共の場所での子どもの扱い」でのイライラ度が高く、また、「家の中に子どもが遊べるスペースがあまりなくて苦勞する」といった子どものスペースがないことに対するイライラ度も高くなっていました。

図1-4

(夫)



Q 子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする。

(1歳児期妻、駄々こねストレス高群・低群別)。

図1-5

してほしいことがあるとき私に「待っててね」と言われると、しばらく待つことができる

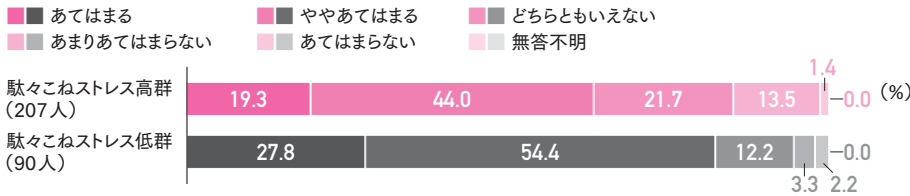


図1-6

子どもとかかわる頻度

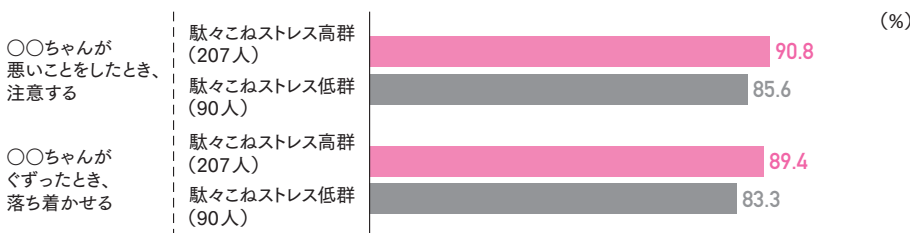


図1-7

子育てに関する情報を得るために、利用したことがある

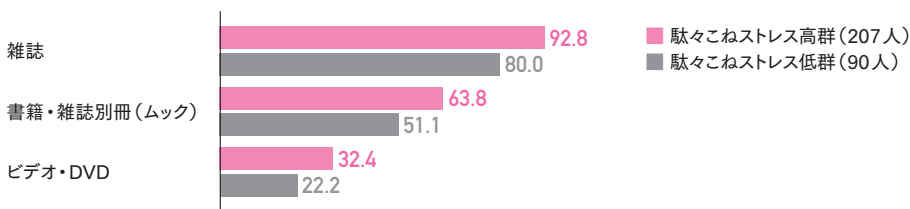


図1-8

配偶者とのかかわり

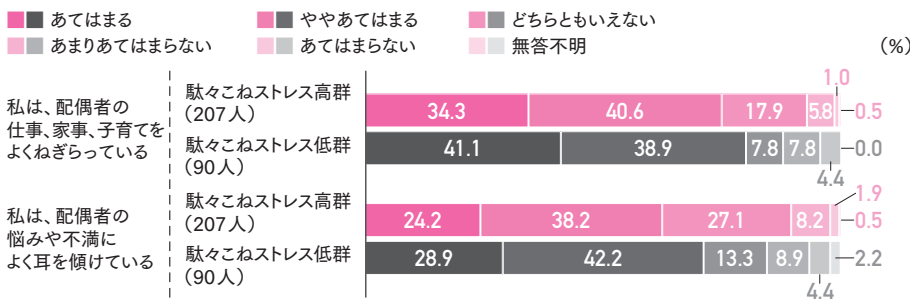
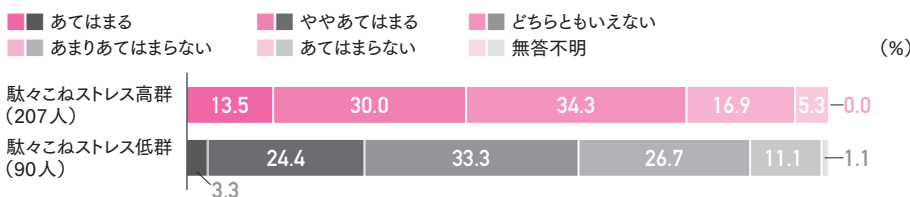


図1-9

子育てのためにいつでも時間に追われていて苦しい



※「子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする」に対する回答を2つの群に分類した。駄々こねストレス高群 = 「非常にイライラする」 + 「ややイライラする」と回答した人、駄々こねストレス低群 = 「どちらともいえない」 + 「あまりイライラしない」 + 「イライラしない」と答えた人

子どもの駄々にストレスを感じている妻の状況

子育てで生活でストレスになり得る12項目のなかで、経験する割合とイライラする割合がともに1歳児期に高くなっている「子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする」に注目し、「非常にイライラする」「ややイライラする」を「駄々こねストレス高群」、「どちらともいえない」「あまりイライラしない」「イライラしない」を「駄々こねストレス低群」として、子育ての状況をみましました。

図1-5をみると、駄々こねストレス高群について、子どもの様子で「してほしいことがあるとき私に『待っててね』と言われると、しばらく待つことができる」で「あてはまる」「ややあてはまる」と回答する割合が駄々こねストレス低群より低くなっています。図1-6をみると、悪いことをしたときの注意や落ち着かせを毎日行う割合が高く、子育てに関する情報の利用も、雑誌、書籍・雑誌別冊(ムック)、ビデオ・DVDで10ポイント以上高くなっています。図1-8をみると、配偶者の悩みや不満に耳を傾けたり、ねぎらったりする割合が低く、図1-9では子育てのために時間に追われて苦しいと感じている割合が高くなっています。

子どもの駄々にストレスを感じている妻は、子どもとかかわる頻度や子育て情報の利用が多い一方、配偶者とのかかわりが少なく、子育てのためにいつでも時間に追われて苦しいと感じる割合が高い傾向がうかがえます。

Q ○○ちゃんの子育てについて、 あてはまる番号1つに○をつけてください。

- あてはまる
- ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりあてはまらない
- あてはまらない
- 無答不明

図1-10

子育てに自信が持てるようになった

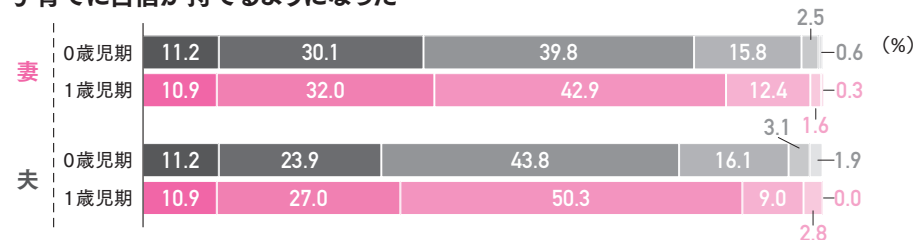


図1-11

子どもがうまく育っているか不安になる

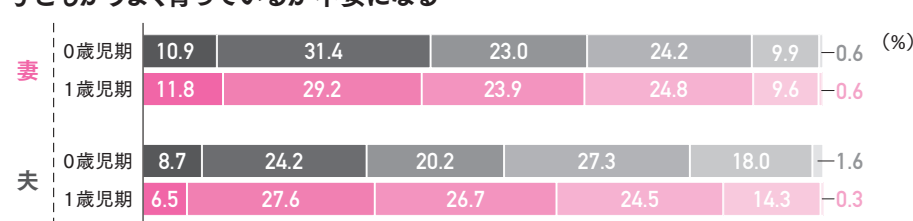


図1-12

子育てが楽しいと心から思う

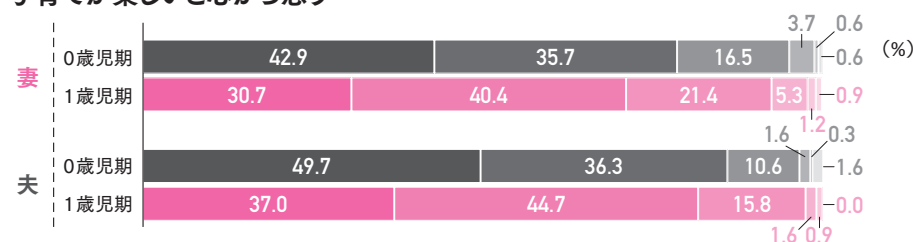
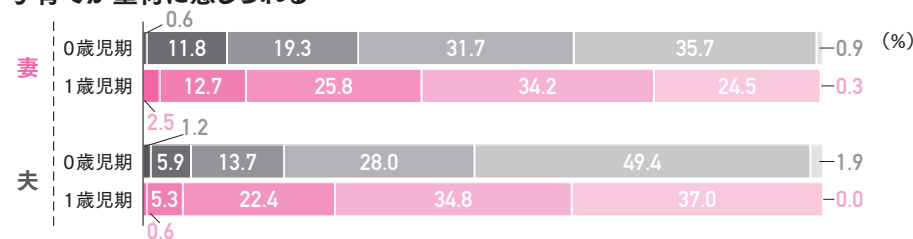


図1-13

子育てが重荷に感じられる



調査検討委員会より こんなサポートが助かる

図1-3、図1-4「子育て生活での経験とストレス」をみると、0歳児期に比べて1歳児期は全体的にストレスが高くなっています。そのなかで注目したいのは、「子どもに遊んでとせがまれる」の項目です。妻も夫も0歳児期から1歳児期にかけてほとんどの人が経験していますが、ストレスを感じる割合が他の項目に比べてとても低くなっています。妻も夫も本来、子どもと遊

ぶのが好きなのではないでしょうか。図1-7をみると、子育てについての情報を得ることで安心する一方で、ストレスの高い人の方が、子育て情報を多く利用していることがわかります。不安だからこそ情報を得ることもありそうです。子育てについての情報を提供するときには、子育ての知恵や工夫を上手に共有できるよう情報の出し方に注意を払うことも大切でしょう。

1歳児期では、夫婦ともに子育てを楽しく感じる割合が減る

妻・夫それぞれに、子育て意識について聞いたものです。「子育てに自信が持てるようになった」「子どもがうまく育っているか不安になる」については、0歳児期に比べて変化が見られませんでした。また、「子育てが楽しいと心から思う」で「あてはまる」と答える割合が減っています。また、「子育てが重荷に感じられる」で「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が減り、子育てをやや負担に感じている様子がうかがえます。

POINT
2

子育てをする夫婦の関係

子育てストレスが高まる1歳児期に

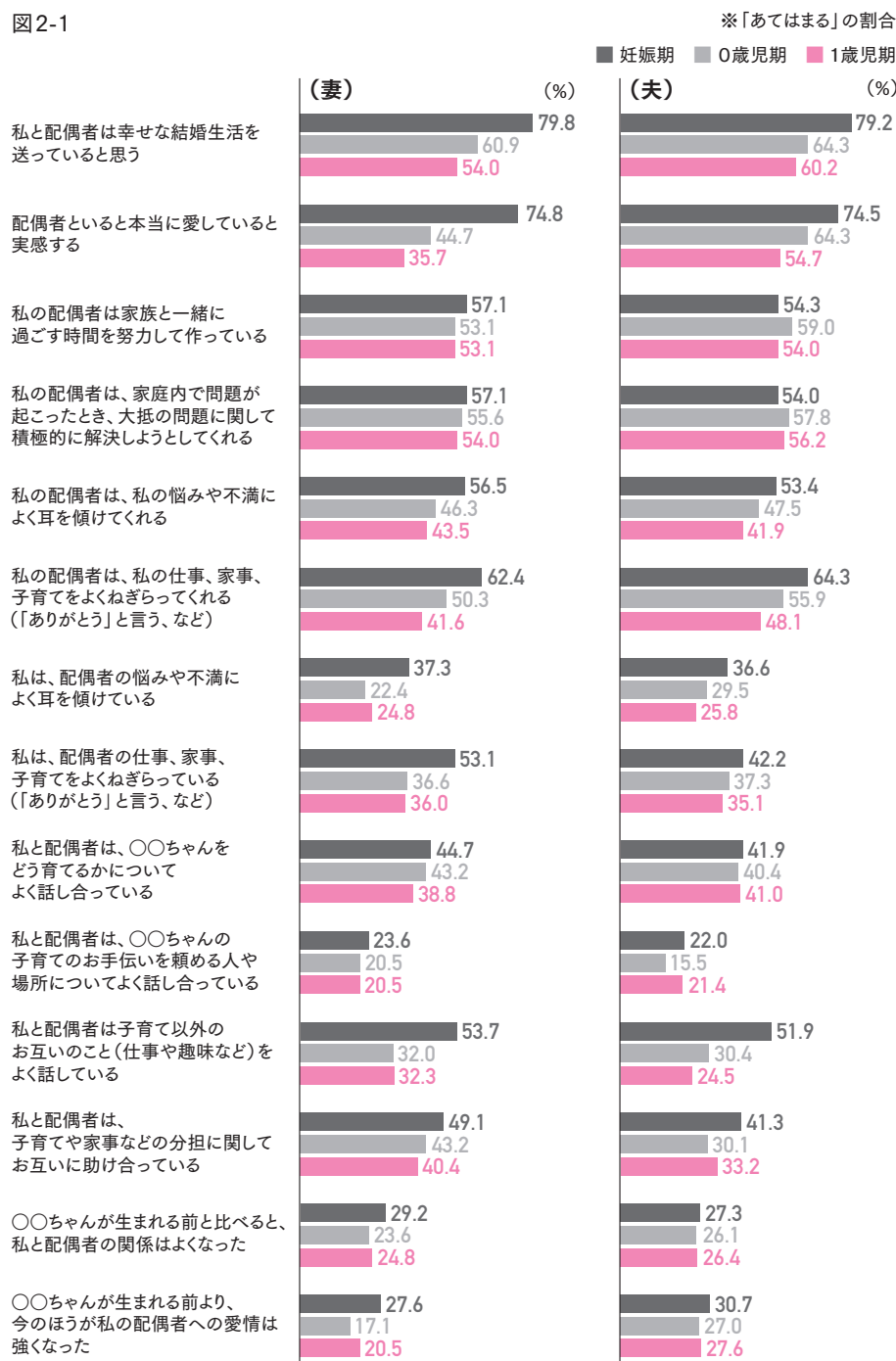
妻と夫は互いにどのようにかかわっているでしょうか。

また、夫婦の関係は妻と夫が子育て意識を育むのにどのように関係しているでしょうか。

夫婦関係

Q あなたと配偶者のことについておうかがいします。

図2-1



夫婦の愛情や
ねぎらいの関係は
ゆるやかに
下降し続ける

妻は、妊娠期から0歳児期に夫婦関係についての14項目のうち8項目で10ポイント以上下降しましたが、0歳児期から1歳児期では10ポイント以上の変化はなく、ゆるやかな下降になります。夫も同様に、妊娠期から0歳児期で10ポイント以上の差があったのは5項目でしたが、0歳児期から1歳児期で10ポイント以上の差は見られませんでした。0歳児期から1歳児期かけての変化が5ポイント以上あったものは、妻では、「私と配偶者は幸せな結婚生活を送っていると思う」「配偶者といると本当に愛していると実感する」「私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」でした。夫では、「配偶者といると本当に愛していると実感する」「私の配偶者は、家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている」「私の配偶者は、私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる」「私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」「私と配偶者は、子育て以外のことをよく話している」で減少し、「私と配偶者は〇〇ちゃんの子育てのお手伝いを頼める人や場所についてよく話し合っている」で増加していました。

Q あなたと配偶者の方とのことについて おうかがいします。

※「子育てに自信が持てるようになった」に対する回答により2つの群に分類した。自信あり群＝「あてはまる」＋「ややあてはまる」と回答した人、自信なし群＝「どちらともいえない」＋「あまりあてはまらない」＋「あてはまらない」と回答した人

図2-2

■ あてはまる ■ ややあてはまる

私と配偶者は、〇〇ちゃんをどう育てるかについてよく話し合っている

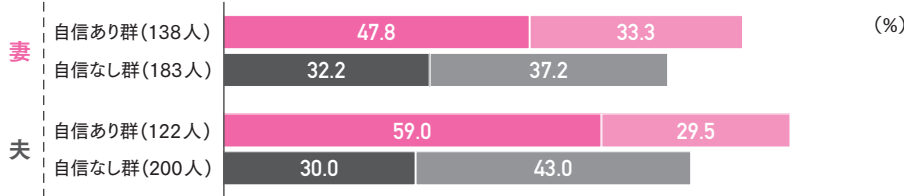


図2-3

私は、配偶者の悩みや不満によく耳を傾けている

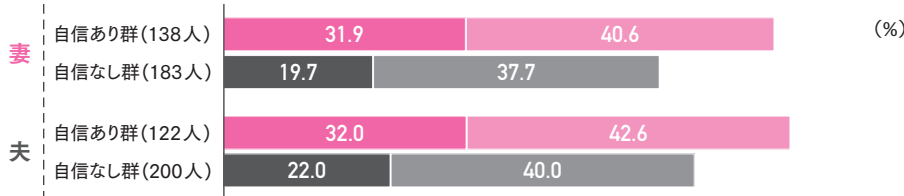


図2-4

私の配偶者は家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている

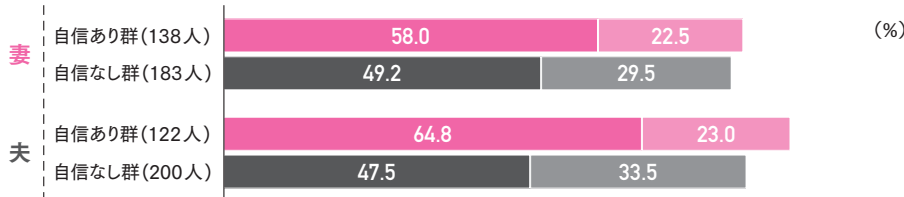
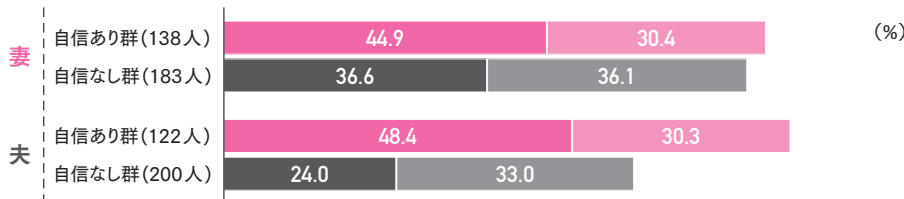


図2-5

私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている



子育てに自信を持っている人は、子どもや配偶者にかかわっている意識が高い

7ページの図1-10「子育てに自信が持てるようになった」について、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人を自信あり群、「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と答えた人を自信なし群の2群に分け、夫婦関係との関連をみましました。妻・夫ともに、自信あり群は「私と配偶者は、〇〇ちゃんをどう育てるかについてよく話し合っている」「私は、配偶者の悩みや不満によく耳を傾けている」であてはまる割合が高くなっています。夫婦で子育てを行い、配偶者の悩みや不満に耳を傾けているという意識を持てることで、子育ての自信と関連しているようです。

夫の場合、家族と一緒に過ごす時間や家事・育児の分担が子育ての自信と関連する

子育ての自信との関連で、夫で差がみられたのが、「私の配偶者は家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている」「私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」でした。自信あり群は、この2項目について、あてはまる割合が高くなっています。夫の場合、妻が家族と一緒に過ごす時間を作ってくれることや夫婦で家事・育児の分担をしている意識が、さらに子育ての自信と関連すると思われます。



POINT
3

父親と子育て

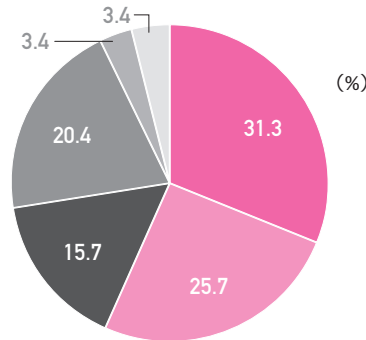
子どもの成長とともに、親子のかかわりは、
触れ合いだけでなく遊びやしつけなどに広がっていきます。
1歳児の父親の子どもとのかかわりと子育て意識についてをみていきます。

夫の実働時間

Q 1日の平均実働時間 (仕事場までの通勤時間は除く)。

図3-1

※「仕事を持つ」と回答した319人の割合



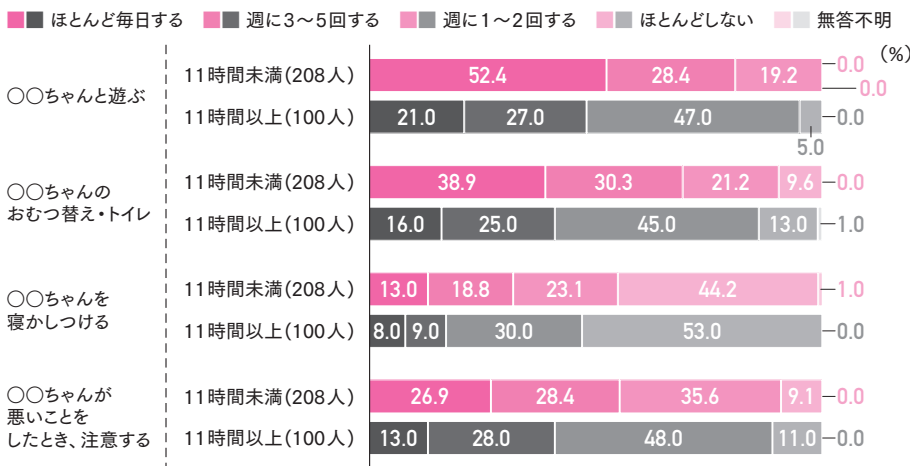
1日の実働時間が
11時間以上の
父親は3割

父親に、1日の平均実働時間を聞いたところ、10時間以上の人は57%をしめ、11時間以上の人が31.3%でした。ここにさらに通勤時間も加わるため、仕事のある日は父親が家族と過ごす時間が限られている状況がうかがえます。

夫の実働時間と子どもとのかかわり

Q 次のようなことについて、 あなたはどれくらいなさっていますか。

図3-2



1日の実働時間が
11時間未満の父親は、
子どもとのかかわり
頻度が高い

父親の子どもとのかかわり方について、実働時間別にみたところ、「遊ぶ」「おむつ替え・トイレ」「寝かしつける」「悪いことをしたとき、注意する」といった項目で、11時間未満の父親のほうが、行っている頻度が高くなっています。とくに、「遊ぶ」についての頻度では、11時間未満の父親の52.4%が「ほとんど毎日する」と回答しているのに対して、11時間以上の父親の47.0%が「週1～2回する」と答えており、実働時間によって子どもとのかかわり頻度の差がきわめて大きいことがわかります。

調査検討委員会より こんなサポートが助かる

図3-2をみると、実働時間の短い父親は子どもと接する頻度が高くなっています。家にいられる時間が長いことが子どもと接する頻度と関連するのでしょう。図3-5では、父親が子どもとのかかわることで親子の愛着関係が築かれる傾向にあることを示しています。1歳児期は人のかかわりの基礎を築く時期です。父親が家に

いて実際に子どもとのかかわることが、子どもとの愛着関係を育む土壌をうみ、父親が親として成長することにつながると考えられます。親子がもっとかかわりを持ち、豊かな時間を過ごせるよう、父親の働き方と地域や家庭での父子のかかわりの場を、よりいっそう社会全体で考えることが必要に思われます。

Q ○○ちゃんの子育てについてあてはまる番号1つに○をつけてください。

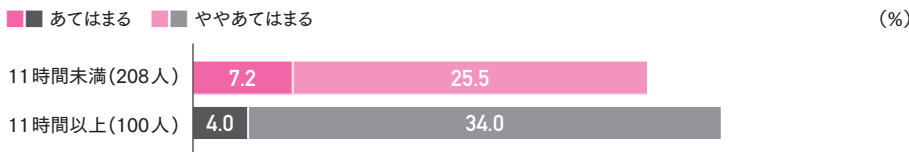
図3-3

子育てが楽しいと心から思う



図3-4

子どもがうまく育っているか不安になる



実働時間が11時間未満の父親は、子育ての楽しさを感じ、不安感も低い

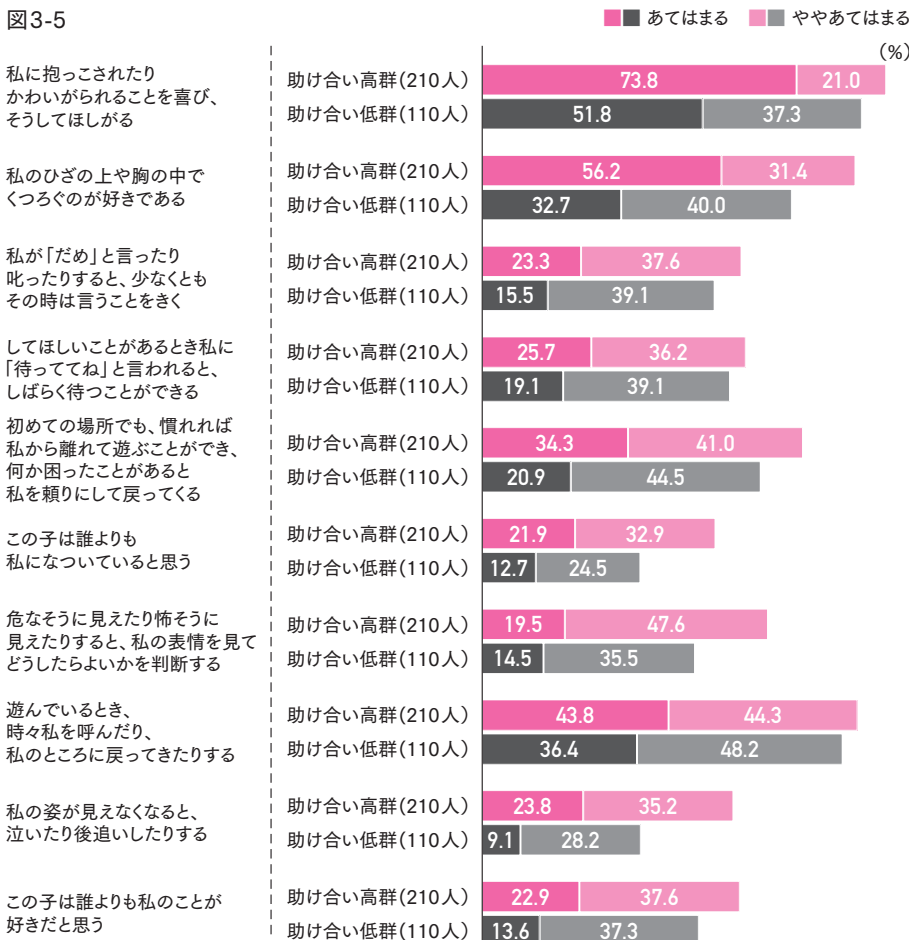
実働時間と子育て意識をみると、実働時間が11時間未満の父親は、「子育てが楽しいと心から思う」で「あてはまる」の割合が11時間以上の父親より9.4ポイント高くなっています。また、「子どもがうまく育っているか不安になる」では11時間未満の父親は「あてはまる」「ややあてはまる」で32.7%と、11時間以上38.0%より5.3ポイント低くなっています。実働時間が11時間未満の父親は、11時間以上の父親より子育てを楽しみ不安も少ない傾向にあります。

家事・育児分担と子どもとの愛着関係

Q ○○ちゃんとのことについておうかがいします。

※「私と配偶者は子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」に対する回答により2つの群に分類した。助け合い高群＝「あてはまる」＋「ややあてはまる」と回答した人、助け合い低群＝「どちらともいえない」＋「あまりあてはまらない」＋「あてはまらない」と回答した人

図3-5



家事・育児分担の意識と子どもとの愛着関係は関係する

8ページの図2-1で「私と配偶者は子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」について、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人を助け合い高群、「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と答えた人を助け合い低群と2群に分け、子どもとの愛着関係との関連についてみました。その結果、子どもとの愛着関係10項目すべてで差がみられ、とくに「私の姿が見えなくなると、泣いたり後追いしたりする」で「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせてみると、助け合い高群59.0%、助け合い低群37.3%と21.7ポイントの差がみられました。配偶者と家事・育児の分担で互いに助け合っている意識のある父親は、子どもとの愛着関係をより育むことができている様子がうかがえます。

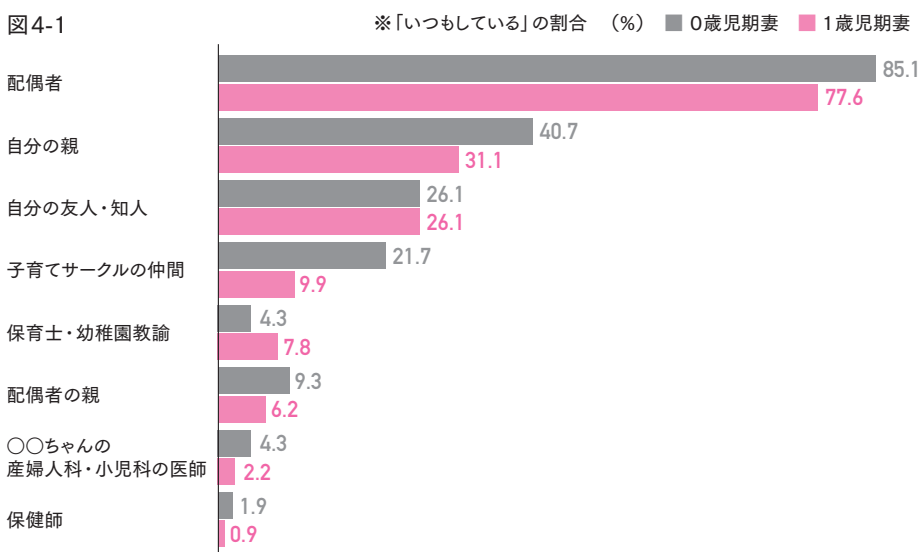
POINT
4

相談先や地域のサポート・ネットワーク

1歳児を育てるなかで、妻・夫は、身近な人や地域の人などと、どうかかわっているのでしょうか。子育てについての相談先や子どもを通じた地域とのかわりについてみていきたいと思います。

相談先

Q ○○ちゃんの子育てについて、相談したり話し合ったりしたことがある人は誰ですか。



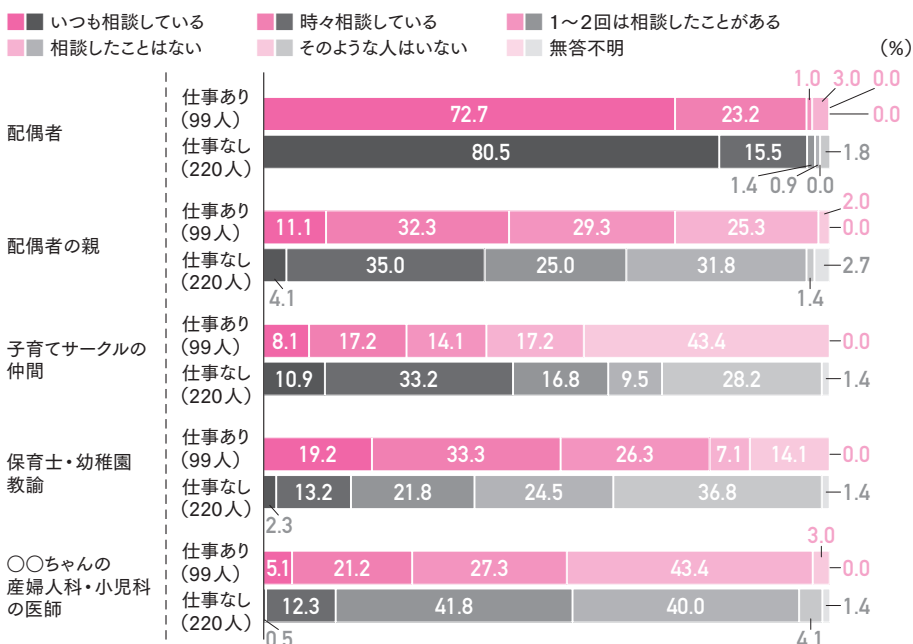
妻は、夫や自分の親など身近な人への子育てについての相談が減る

1歳児期の妻の相談先をみると、「配偶者」「自分の親」「子育てサークルの仲間」など、自分の身近な人への相談が多いものの、頻度は0歳児期よりも減っています。ここには紹介していませんが、1歳児期の夫の相談先は、0歳児期と変わらず、「配偶者」に集中します。(0歳児期77.6%、1歳児期68.3%)

図4-2

仕事の有無別(1歳児期妻)

※「現在、仕事を持っていますか」で「持っている」を仕事あり、「持っていない」を仕事なしの2つの群に分類した。



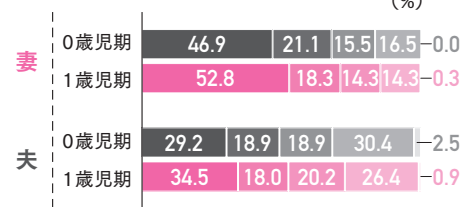
仕事を持つ妻の場合、専門家に相談する頻度が高い

妻について、現在の仕事の有無別に、相談する頻度をみました。仕事を持つ妻は「配偶者の親」に加え、「保育士・幼稚園教諭」「産婦人科医・小児科医」など専門家に相談する頻度が高くなっています。仕事を持たない妻は、「配偶者」「子育てサークルの仲間」に多く相談しています。

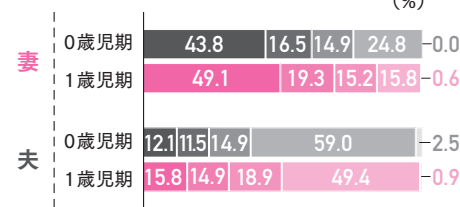
Q 地域の中での子どもを通じたおつきあいについておうかがいします。

図4-3 ■ 3人以上いる ■ 2人くらいはいる ■ 1人はいる ■ 1人もいない ■ 無答不明

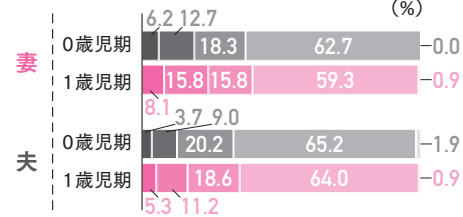
〇〇ちゃんのことを気にかけて、声をかけてくれる人



子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人



〇〇ちゃんを預けられる人



子育ての悩みを相談できる人

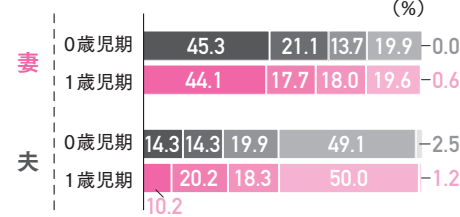
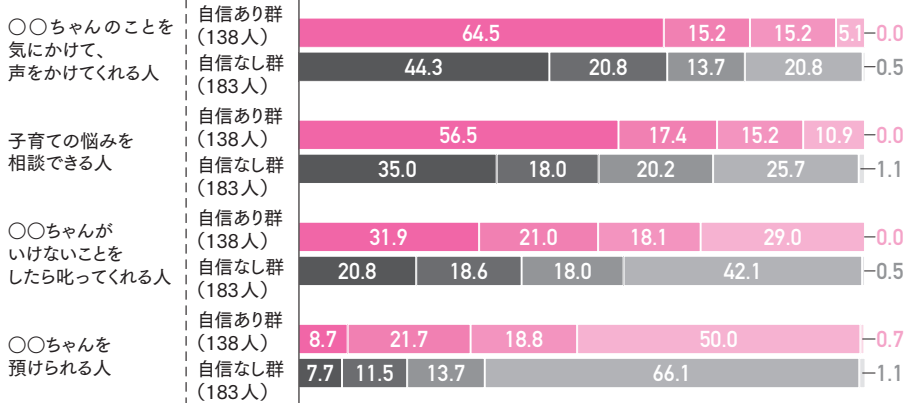


図4-4

子育ての自信あり・なし群別(1歳児期妻)

※「子育てに自信が持てるようになった」に対する回答により2つの群に分類した。自信あり群＝「あてはまる」＋「ややあてはまる」と回答した人、自信なし群＝「どちらともいえない」＋「あまりあてはまらない」＋「あてはまらない」と回答した人

■ 3人以上いる ■ 2人くらいはいる ■ 1人はいる ■ 1人もいない ■ 無答不明 (%)



サポート・ネットワークについて

0歳児期から1歳児期にかけて「子どものことを気にかけて、声をかけてくれる人」「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人」は増えています。一方、「子どもを預けられる人」「子育ての悩みを相談できる人」はほぼ変わりませんでした。0歳児期から1歳児期にかけて、地域の中でのネットワークは少しずつ広がっていますが、子どもを預けたり、悩みを相談できたりするサポート・ネットワークは0歳児期と同じ様子がうかがえます。

子育てに自信を持つ人は、子どもを通じてつきあう人数が多い傾向

子育ての自信と地域での子どもを通じた付き合いとの関連をみた結果です。自信あり群は「子どものことを気にかけて、声をかけてくれる人」「子育ての悩みを相談できる人」「子どもがいけないことをしたら叱ってくれる人」「子どもを預けられる人」が多くいることがわかりました。子育てに自信を持つ人は、さまざまな地域サポート・ネットワークを有している傾向がうかがえます。

調査検討委員会より こんなサポートが助かる

1歳児期は子どもの身体的な発達に伴い、子どもというスペースが家の中だけでなく、家の外にも広がっていきます。図4-3をみると、「子どものことを気にかけて、声をかけてくれる人」や「子ども同士を遊ばせながら立ち話をする程度の人」が、0歳児期から1歳児期にかけて増えていますね。また、図4-4でも、子育ての自信と地域でのつきあいに関連がある様子がみられます。一方、5ページの「子育て生活での経験とストレス」で「大勢の人がいるような公共の場で、子ど

もの扱いに困る」への経験とストレスが1歳児期に高まっていたことが気になります(1歳児期妻で経験したことがある割合82.3%、イライラ度61.2%)。社会全体で子どもと子育て中の親をあたたく見守るとともに、公共の場で子どもが遊べるスペースの確保や、子育て支援センターが利用しやすい、プログラムに参加しやすい、地域や専門家など身近な人に相談しやすいことが求められてくると考えられます。

1歳児期を通して

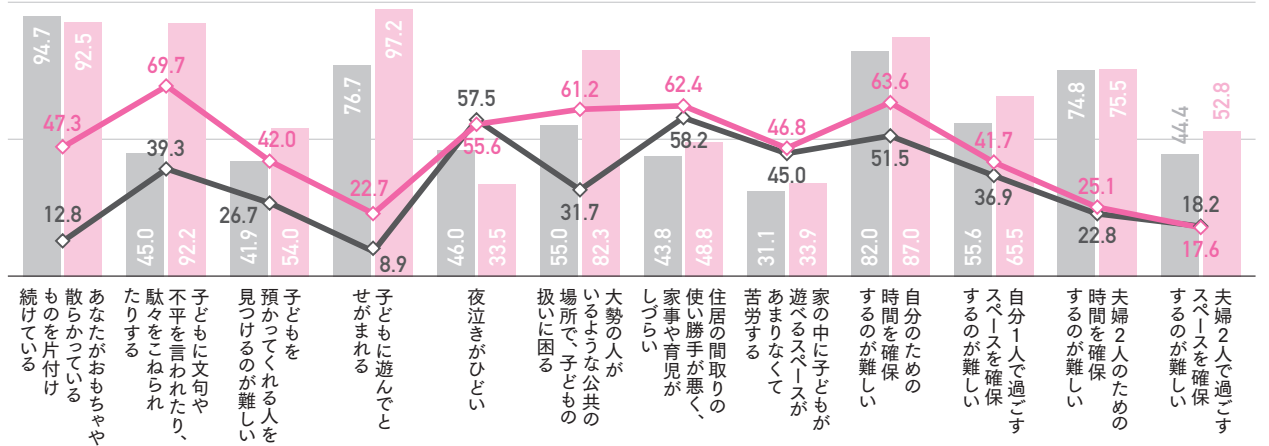
(妻の場合)

子どもの成長に伴い、子育てストレスが高くなります。地域でサポートをする人が多くいる人ほど、子育てへの自信が築かれる傾向があります。

図5-1

子育て生活での経験率とストレス

■ 0歳児期 経験率 ◇ 0歳児期 イライラ度
■ 1歳児期 経験率 ◇ 1歳児期 イライラ度

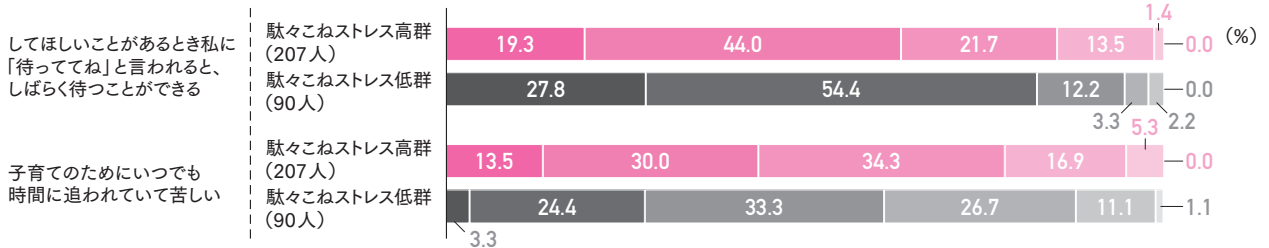


0歳児期に比べて、妻は子育て生活で経験することが増え、ストレスも高まる傾向にあります。

図5-2

子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする

■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない
■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無答不明



子どものしつけが難しくなったり、子育ての時間に追われたりすることで、イライラ感が大きくなります。

図5-3

子育てに自信が持てるようになった

■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない
■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無答不明



0歳児期から1歳児期にかけて、地域でサポートをする人数が増えた人は、子育てへの自信が築かれる傾向にあります。

※「子育ての悩みを相談できる人」に対する回答「1人もいない」「1人はいる」「2人くらいはいる」「3人以上はいる」に対して、回答者ごとに0歳児期に答えた回答と1歳児期に答えた回答を比べ、「悩みを相談できる人数が増えた人」と「悩みを相談できる人数が減少した人」を割り出した。

妻は、1歳児の子どもを育てる中で、おもちゃを片付け続けたり、子どもに駄々をこねられたり、公共の場で子どもの扱いに困ったりと子育てストレスの多い生活を送っています。子どもが親の言う通りに待つことができないなどのしつけが難しかったり、子育ての時間に追われたりすると、イライラ感が増します。地域で悩みを相談できる人数が増えた人は、子育ての自信が築かれる傾向にあります。

(夫の場合)

子どもと過ごす時間を持ち、かかわる頻度が多くなることで、親子の愛着関係が育まれていきます。

図5-4

子どもと遊ぶ

■ ほとんど毎日する ■ 週に3~5回する ■ 週に1~2回する
 ■ ほとんどしない ■ 無答不明

就業時間が短い夫は、遊ぶ、寝かしつけるなど子どもとかかわる頻度が高くなります。

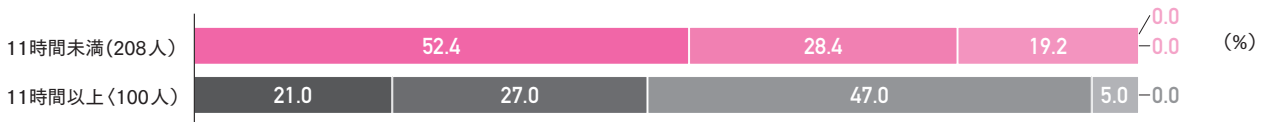


図5-5

子どもを寝かしつける

■ ほとんど毎日する ■ 週に3~5回する ■ 週に1~2回する
 ■ ほとんどしない ■ 無答不明

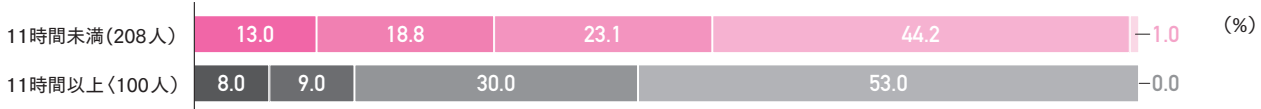


図5-6

私のひざの上や胸の中でくつろぐのが好きである

■ あてはまる ■ ややあてはまる

子どもと多くかかわる夫ほど、子どもと愛着関係を築ける傾向にあります。

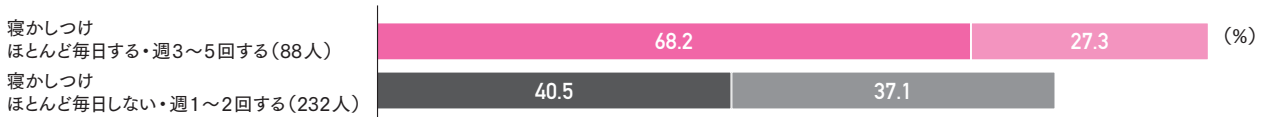


図5-7

私が「だめ」と言ったり叱ったりすると、少なくともその時は言うことをきく

■ あてはまる ■ ややあてはまる

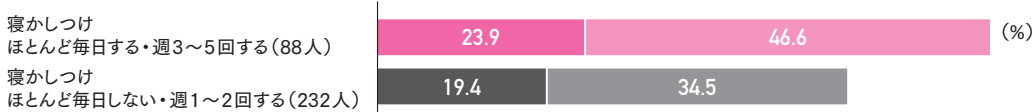
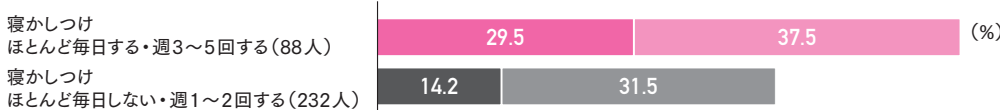


図5-8

私の姿が見えなくなると、泣いたり後追いをしたりする

■ あてはまる ■ ややあてはまる



夫の1歳児の子どもとのかかわりや子育て意識はどうでしょうか。夫の場合、就業時間が短く子どもとかかわる時間を持つことができること、さらに夫自身が子どもと遊んだり、子どもを寝かしつけたりといった子育てにかかわることによって、子どもが父親のもとでくつろいだり、言うことを聞いたり、後追いをしたりするなど、親子の愛着関係を築いていく傾向がうかがえます。

(参考) 昨年度までの調査でわかった結果を掲載します。

妊娠期～0歳児期を通して

(妻の場合)

妊娠期の準備や夫婦での助け合いの経験がスムーズな出産につながり、その体験により子育ての自信がついていきます。

図6-1

妊婦向けの運動(マタニティスイミングなど)をしている

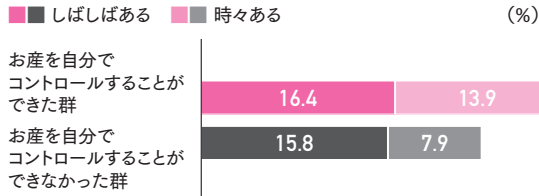


図6-2

私の配偶者は家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている

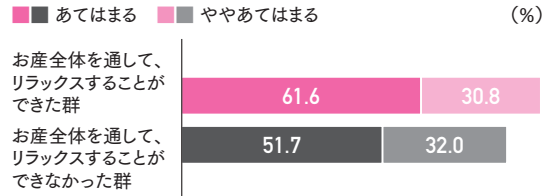


図6-3

お産を自分でコントロールすることができた

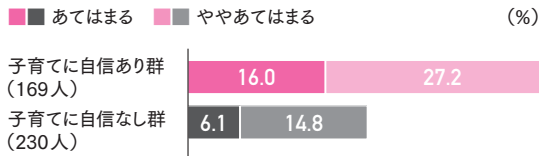
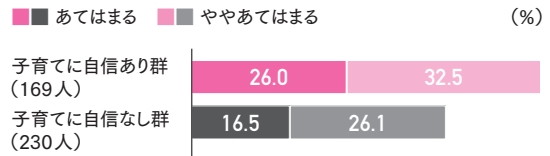


図6-4

お産全体を通して、リラックスすることができた



データ解説

- お産をコントロールできた群(122人) = 0歳児期に「お産をコントロールできた」で「あてはまる」「まああてはまる」と回答した人
- お産をコントロールできなかった群(279人) = 0歳児期に「お産をコントロールできた」で「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した人

- お産全体を通じて、リラックスすることができた群(198人) = 0歳児期に「お産全体を通じて、リラックスすることができた」で「あてはまる」「まああてはまる」と回答した人
- お産全体を通じて、リラックスすることができなかった群(203人) = 0歳児期に「お産全体を通じて、リラックスすることができた」で「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した人

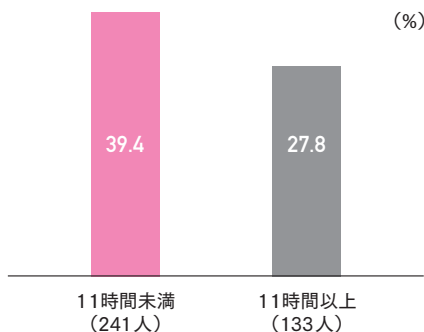
(夫の場合)

就業時間の長い夫は、子どもとの関わりが少なくなり、親としての自信を持つチャンスを逃すことにもなります。

図6-5

子育てに自信が持てるようになった

※「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合



データ解説

- 0歳児期夫の1日の就業時間(通勤時間除く)を、11時間未満と11時間以上の2つの群に分類した。

図6-6

おむつ替え・トイレ

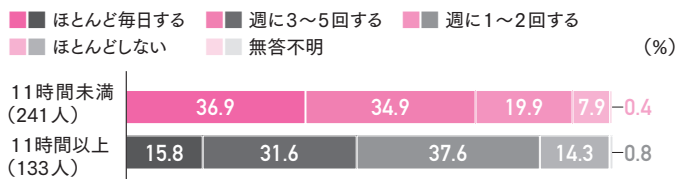
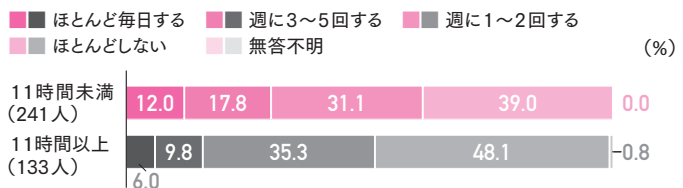


図6-7

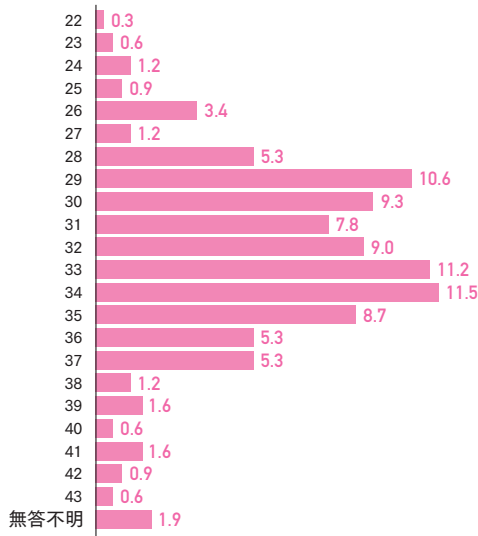
寝かしつけ



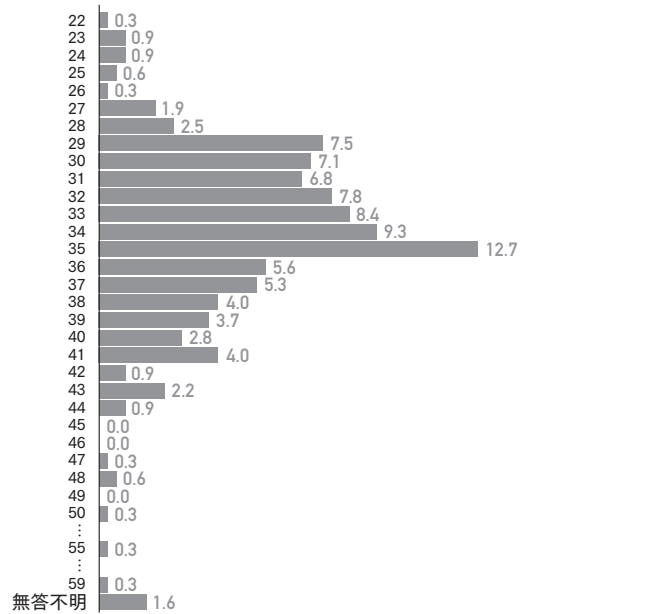
Research DATA (1歳児期)

現在の年齢

年齢(1歳児期妻) (%)

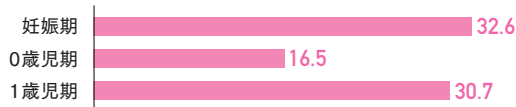


年齢(1歳児期夫) (%)

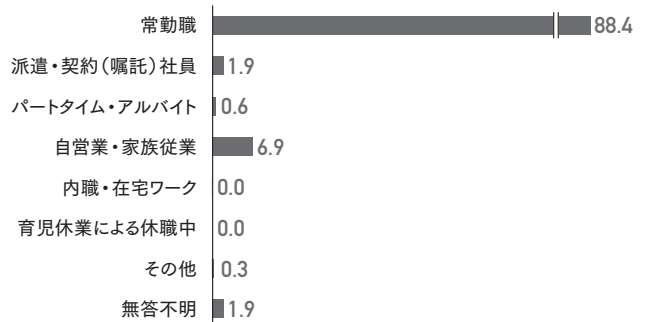


現在の職業

仕事を持つ割合(妻) (%)

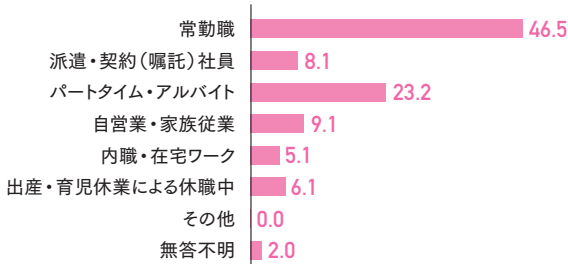


現在の職業(1歳児期夫) (%)



現在の職業(1歳児期妻)

※「仕事を持つ」と回答した99人の割合 (%)

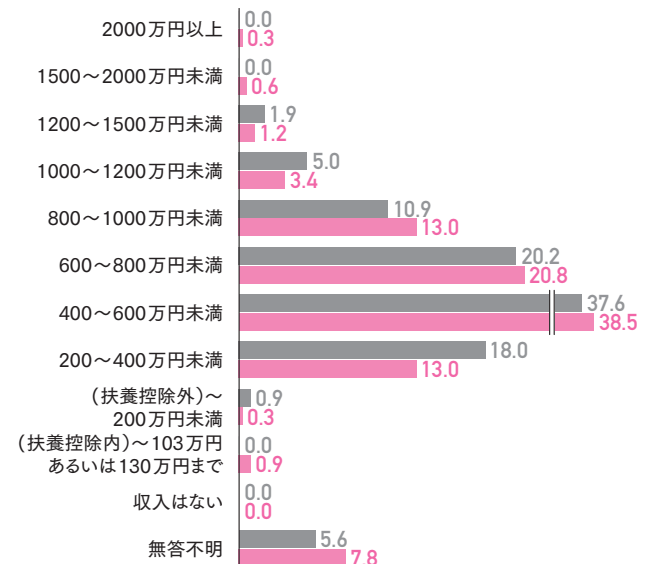


※「仕事を持つ」と回答した319人の割合

世帯収入

世帯収入

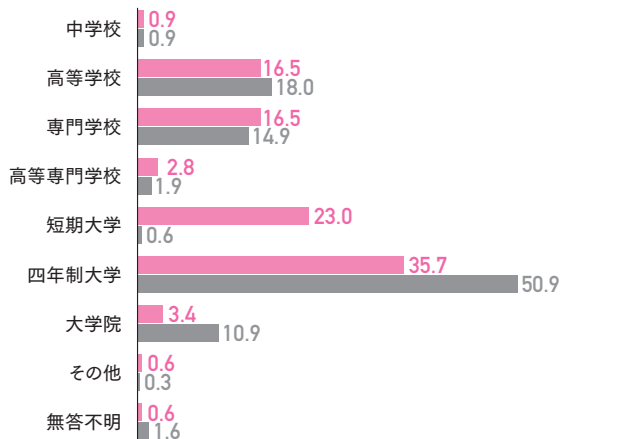
■ 0歳児期妻 ■ 1歳児期妻 (%)



最終学歴

最終学歴(1歳児期妻・夫)

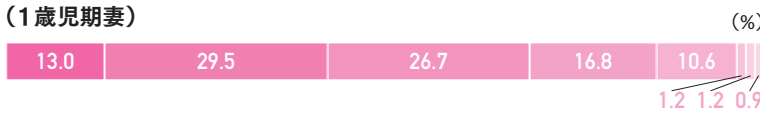
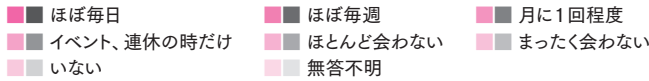
■ 妻 ■ 夫 (%)



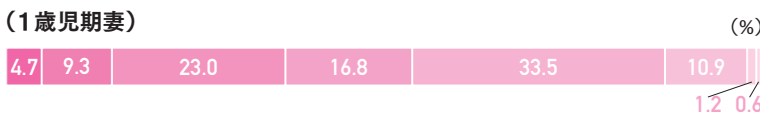
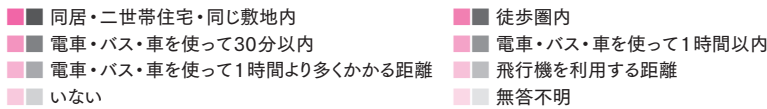
祖父母との関係

実家の親と会う頻度

※それぞれ自分の親について回答してもらった。

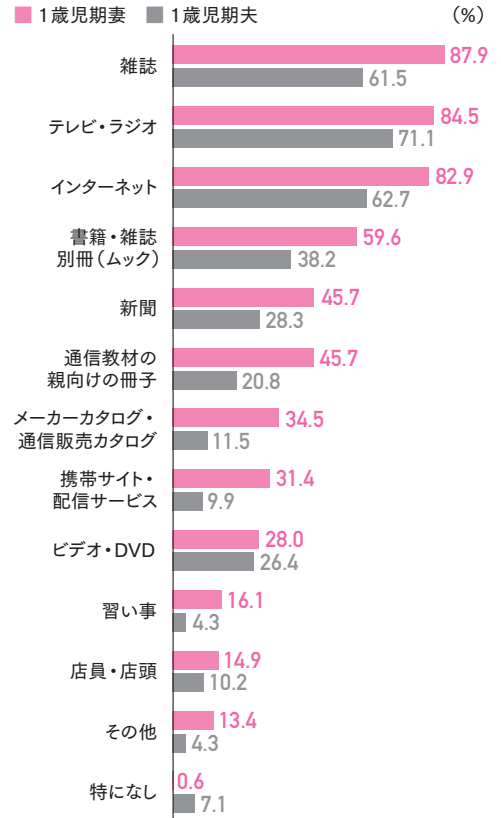


実家の親との距離



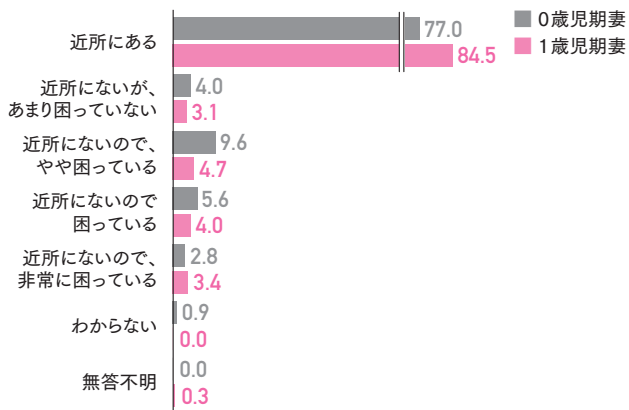
子育てに関する情報源

子育てに関する情報源 (1歳児期妻・夫)

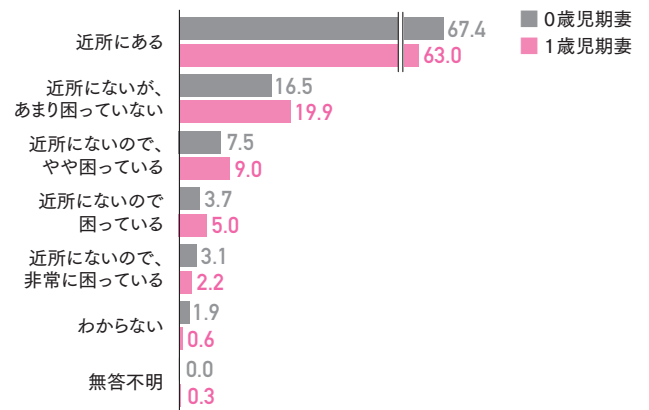


地域の施設

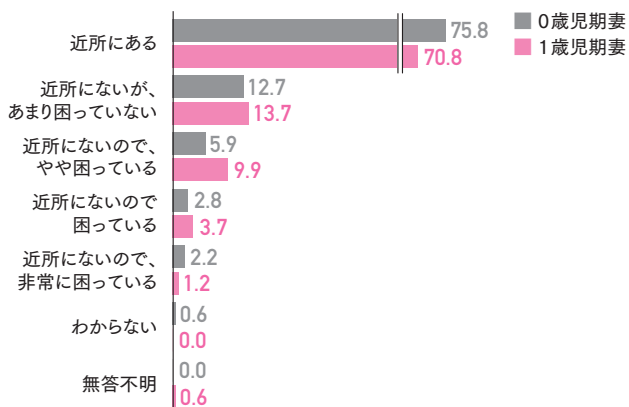
お散歩できるような公園や遊歩道など



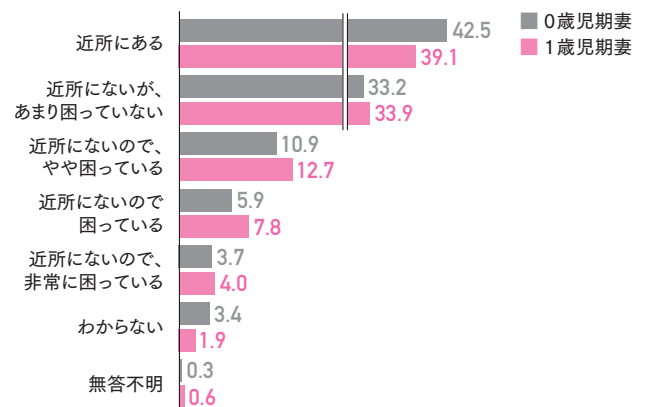
公共の子育て支援施設



小児科や子供を診てくれる病院



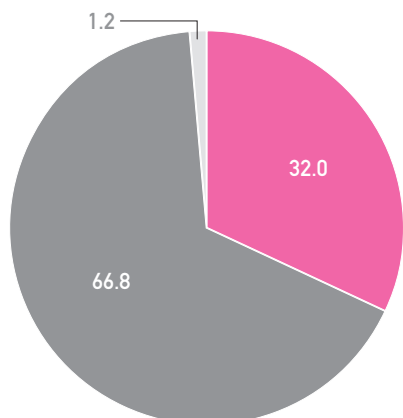
自分のことを診てくれる産婦人科や助産院



保育の状況

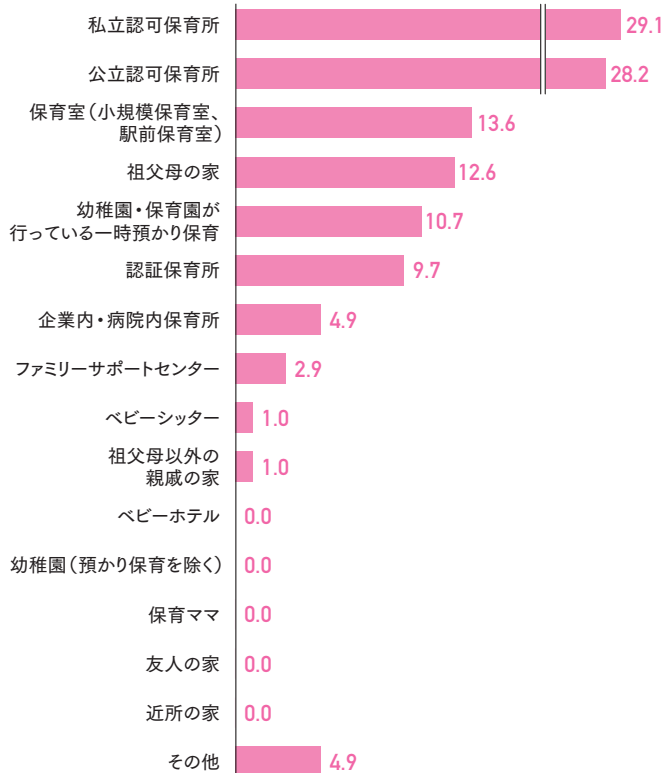
託児施設や保育サービスなどに定期的に預けている状況(1歳児期妻)

■ はい ■ いいえ ■ 無答不明



預け先(1歳児期妻)

※「はい」と答えた人のみ (%)



妊娠出産子育て基本調査既刊のご案内

第1回妊娠出産子育て基本調査報告書

妊娠期から2歳までの子どもを持つ夫婦を対象に、妊娠・出産・子育ての実態把握や、子育て生活と夫婦のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)との関連性をとらえたアンケート調査の報告書と速報版です。



※報告書は、ホームページから購入申込できます。

(報告書) 有料
(速報版) 無料

第1回妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査報告書(妊娠期~0歳児期)

「第1回妊娠出産子育て基本調査」で妊娠期だったご家族とその後追加したご家族合わせて約370組を、継続して追跡。親になるプロセスと子育ての状況を探ったアンケート調査の報告書と速報版です。



(報告書・速報版) 無料

上記の刊行物はすべてホームページからご覧いただけます。
各種検索エンジンで「ベネッセ次世代育成研究所」で検索してください。

<http://www.benesse.co.jp/jisedaikin/>



第1回 妊娠出産子育て 基本調査・フォローアップ調査(1歳児期) はじめてのペアレンティング研究会

調査検討委員会メンバー

- 小林 登(委員長・ベネッセ次世代育成研究所所長、東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長)
- 大日向雅美(恵泉女学園大学大学院教授)
- 榊原洋一(お茶の水女子大学教授)
- 菅原ますみ(お茶の水女子大学大学院教授)
- 丸 光恵(東京医科歯科大学大学院教授)
- 後藤憲子(ベネッセ次世代育成研究所主任研究員)

ワーキンググループメンバー

- 菅原ますみ(お茶の水女子大学大学院教授)
- 酒井 厚(山梨大学准教授)
- 松本聡子(お茶の水女子大学リサーチフェロー)
- 梅崎高行(九州ルーテル学院大学准教授)
- 高岡純子(ベネッセ次世代育成研究所主任研究員・調査事務局)
- 田村徳子(ベネッセ次世代育成研究所研究員・調査事務局)
- 持田聖子(ベネッセ次世代育成研究所研究員・調査事務局)

「第1回妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査(1歳児期)報告書」(仮)は、2010年3月に刊行予定です。

本調査の詳細な分析をまとめた「第1回妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査(1歳児期)報告書」(無料)を、2010年3月に刊行する予定です。この報告書の申し込みは、ベネッセ次世代育成研究所のHPからできます。発刊次第、お送りいたします。なお、この報告書は書店ではお求めになれません。直接、ベネッセ次世代育成研究所にお申し込みください。

ベネッセ次世代育成研究所とは

ベネッセ次世代育成研究所は、子どもや家族が「よく生きる」ことを支援するために、子ども学・ペアレンティング学などに関する調査・研究を実施し、社会への還元などを目的としています。今までに「乳幼児の父親についての調査」「乳幼児とメディア視聴についての調査・研究」「幼児教育・保育についての基本調査」などに取り組んでいます。研究所の詳細については、HPをご覧ください。

<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/>

(各種検索エンジンで「ベネッセ次世代育成研究所」で検索してください。)

ご意見をお聞かせください。

この調査に関するご意見・ご感想を、ベネッセ次世代育成研究所のHP(調査や調査報告書に関するお問い合わせ)で受け付けております。

〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

ベネッセ次世代育成研究所「妊娠出産子育て基本調査」係

TEL:03-3295-0294 FAX:03-5577-8420

受付時間/10:00~17:00(土・日・祝日除く)

第1回 妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査(1歳児期)速報版

発行日:2010年2月28日 発行人:新井健一 編集人:後藤憲子

発行所:株式会社ベネッセコーポレーション 〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

デザイン:Aleph Zero, inc. イラスト:macco

9TH014 ©ベネッセ次世代育成研究所/無断転載を禁じます。